

生年月日別の風疹予防接種制度

~1962.4/1	62.4/2~ 79.4/1	79.4/2~ 87.10/1	87.10/2~ 90.4/1	90.4/2~ 95.4/1	95.4/2~ 2000.4/1	00.4/2~ 05.4/1	05.4/2~
接種なし	1回のみ 女子のみ 1回のみ 女子のみ 中学時 (集団接種)	1回のみ 1回のみ 中学時 (個別接種) (1~6歳で MMRの人も)	1回のみ 1回のみ 1~7歳半 (1~6歳で MMRの人も)	1回目 1~7歳半 (1~6歳で MMRの人も)	1回目 1~7歳半	1回目 1~5歳	1回目 1歳でMR
				2回目 高校3年で MR	2回目 中学1年で MR	2回目 小学入学前にMR	

MMRは麻疹風疹おたふく風邪混合、MRは麻疹風疹混合

妊婦感染するとCRSの恐れ

妊婦が感染すると胎児が先天性風疹症候群（CRS）になる恐れがある風疹。県内でも急速に拡大しつつある。予防接種などで体内に抗体ができれば防げる感染症だが、問題は「自分に抗体があるかどうか分からない」という人が多いこと。まずは自分の予防接種歴などを再確認し、必要に応じて抗体検査や予防接種を受けたい。佐山雅昭県産婦人科医会長と浅井秀実県小児科医会長は「CRSを防ぐためにも、一人一人の心掛けが重要」と注意を促している。

（荻原恵美子）

「風疹の抗体」確認を

世代、性別で接種変遷

● 予防接種歴

抗体を作るのに効果的なのは予防接種だが、国の制度の変遷

が、表参照により、接種率は世代によって大きく異なる。

低迷が顕著なのは、1979年4月2日

87年10月1日生まれの男女。接種方式が学校での集団接種から医療機関での個別接種に変わったこともあり、接種率は50%程度にとどまる。佐山会長は「幼少期などに風疹にかかり、自然に抗体を獲得した人もいる。だが、

それを含めても、この世代の女性は9人に1人が抗体を持っていない」と懸念する。

1962年4月1日以前に生まれた女性は、数値を見る抗体検査。[H]法（赤血球凝集抑制反応）や[EIA]法（酵素免疫法）といっ

た「予防接種を受けた世代の女性は9人に1人が抗体があるか不安」という状況で行われている。約1万円と単独ワクチンより高いが、浅井会長は「風疹抗体価の低い人は麻疹抗体価も低いことが多い。麻疹対策の意味でも、ぜひ受けてほしい」と助言する。



佐山雅昭県産婦人科医会長



浅井秀実県小児科医会長

● 血液で検査

「予防接種を受けたかどうか忘れてしまった種を受けずに済む。左

山会長と浅井会長が所属する小山地区医師会は、今月1日から自己負担1千円で抗体検査を始めた。栃木市、岩舟町なども抗体検査への助成を行っている。

抗体価が低い場合、感染拡大を防ぐ意味でも、年齢を問わず予防接種を受けることが望ましい。

● 関心高めて

風疹単独ワクチンは生産量が少ないため、麻疹風疹混合（MR）ワクチンの接種が勧められている。約1万円と単独ワクチンより高いが、浅井会長は「風疹抗体価の低い人は麻疹抗体価も低いことが多い。麻疹対策の意味でも、ぜひ受けてほしい」と助言する。

自由診療のため5千円ほどの自己負担が必要だが、抗体価が高いことが分かれば予防接種を受けずに済む。左